

2019年4月18日

介護福祉学科  
教務委員会

## 第22期生「在学中の教育に関する調査」結果

2019年3月7日に実施した介護福祉学科2年次生（第22期生）への「在学中の教育に関する調査」の結果を下記のとおりご報告いたします。

## I. 調査概要

1.調査日：2019年3月7日

2.調査対象者：本学介護福祉学科2年次生20名 回収数（回収率）：20通（100%）

## II. 調査結果

### 1. 調査対象者の属性

#### 1) 性別

本調査に回答した2年次生（以下、「学生」）の性別は、女性15名（75%）、男性5名（25%）であった。

#### 2) 入学試験の選抜方法

入学試験の選抜方法については、「指定校制推薦入学試験」（16名，80%）が最も多く、次いで、「公募制推薦入学試験」（2名，10%）、「一般入学試験」（1名，5%）、「自己推薦入学試験」（1名，5%）であった。

#### 3) 本学へ進学してよかったか

「本学へ入学してよかったか」について、よかったと「思う」から「思わない」の4件で回答を求めた。

「よかったと思う」と回答した学生は16名（80%）、「少し思う」4名（20%）であった。

#### 4) 卒業後の進路（表1）

卒業後の進路については、就業先として、「社会福祉法人」（16名，80%）、「民間企業（福祉・医療）」（3名，15%）、「医療法人」（1名，5%）であった。

表1.卒業後の進路（n=20）

就職先	人数	%	就職先	人数	%
社会福祉法人	16	80	家業を継ぐ	0	0
医療法人	1	5	公的機関（福祉・医療以外）	0	0
未定	0	0	公的機関（福祉・医療）	0	0
民間企業（福祉・医療）	3	15	民間企業（福祉・医療以外）	0	0
進学（含む編入学）	0	0	無回答	0	0
その他	0	0	合計	20	100

## 2.2 年次（この1年間）の学びについて

2年次に履修した科目の理解について、4件で回答を求めた（図1）。

理解できていると「思う」との回答が最も多かった科目は「医療的ケアに関する知識」（12名、60%）、「介護の基本Ⅲ（リスクマネジメント、感染予防他）」（11名、55%）、「終末期の介護についての知識」（10名、50%）、「介護過程の展開」（10名、50%）の順であった。

一方で、自分が理解できていると「思わない」という回答があった科目は、「医療的ケアの技術」、「生活支援技術Ⅵ（調理・被服）」がそれぞれ（1名、5%）であった。

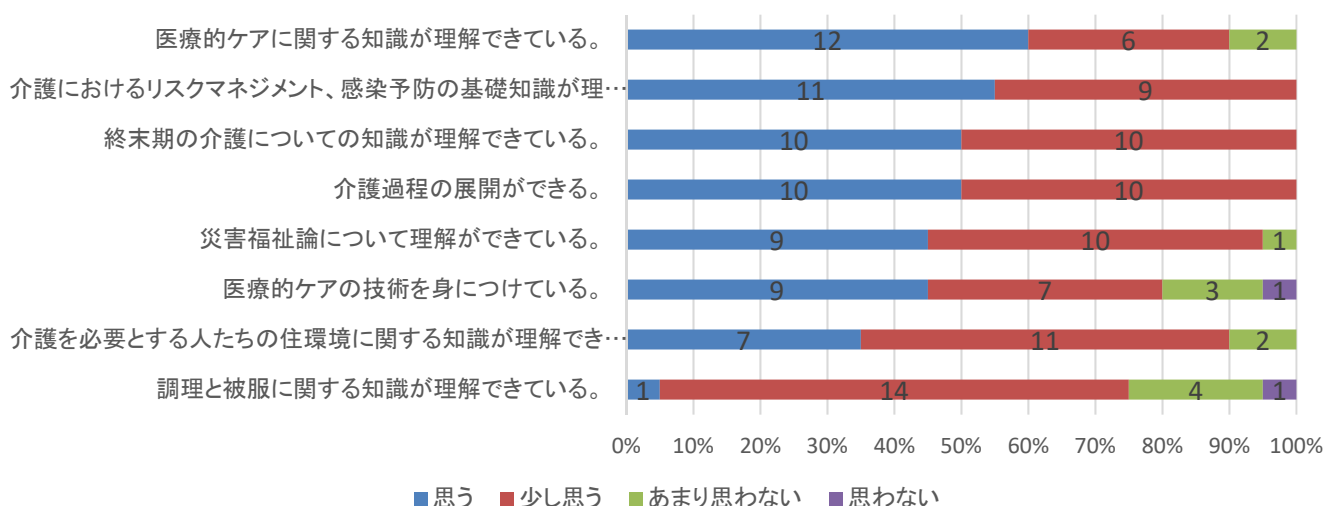


図1. 2年次に履修した科目の理解度 (n=20)

## 3. 授業への取り組み

### 3-1) 授業への普段からの取り組み

授業への普段からの取り組みに関する項目について、「あてはまる」から「あてはまらない」までの4件で回答を求めた（図2）。

「あてはまる」の回答が最も多かったのは、「履修した科目は途中で投げ出さない」（18名、90%）であり、次いで多かったのが、「授業に遅刻しないようにする」（16名、80%）、「授業で出された宿題や課題はきちんと行う」、「授業に必要な教科書、資料、ノートなどを毎回持参する」がそれぞれ（14名、70%）であった。「あてはまる」と「少しあてはまる」のみ回答された項目は、「履修した科目は途中で投げ出さない」、「授業で出された宿題や課題はきちんと行う」、「グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する」であった。

一方で、「授業の予習をする」、「グループワークやディスカッションでは、進んでまとめ役を行う」については、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」と回答する学生が多く、主体的に学習に取り組む姿勢が不足していることが明らかとなった。

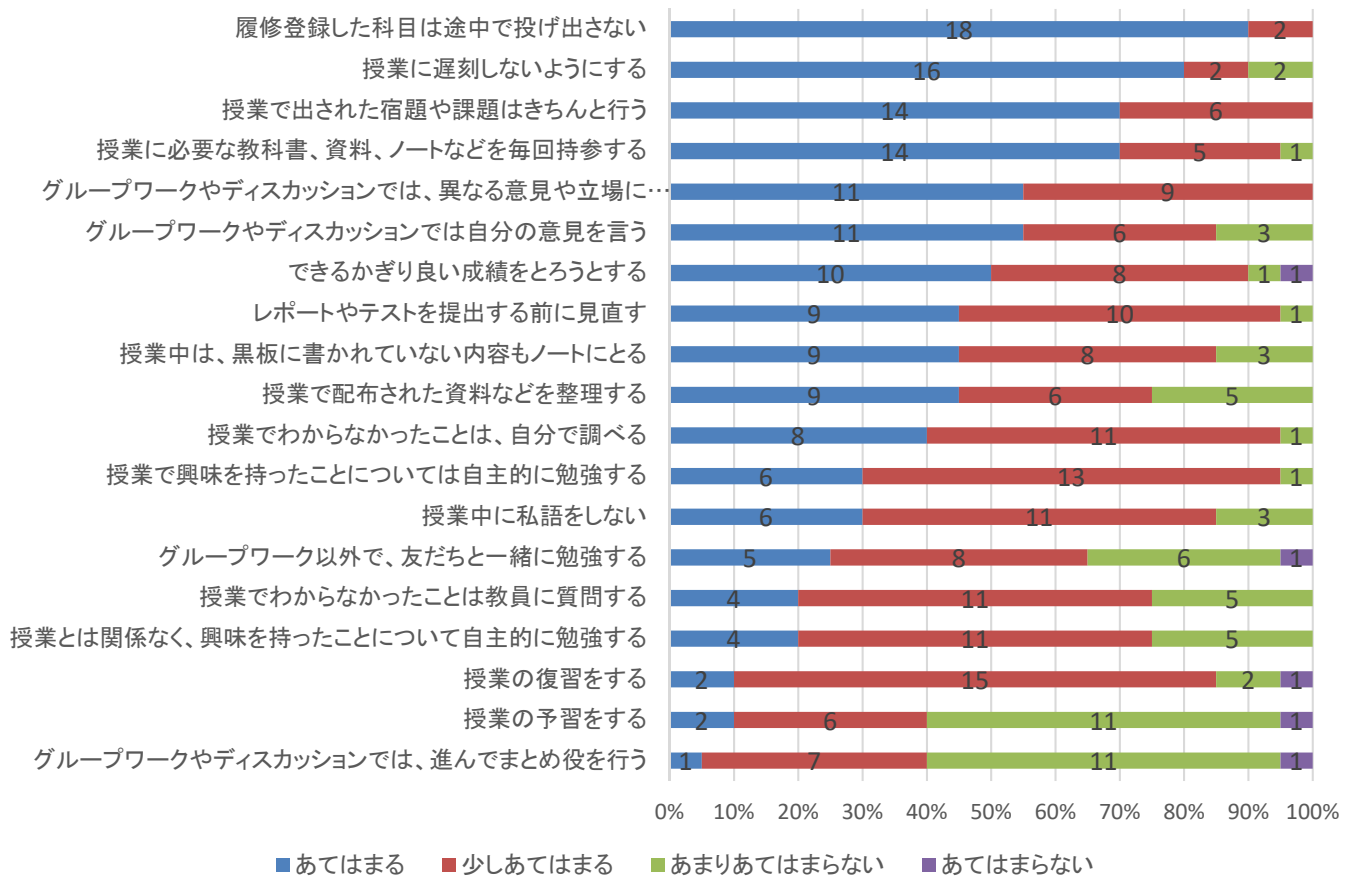


図2. 授業への取り組み (n=20)

### 3-2) 1年次の時と比べての変化

現在の学習時間や授業への出席状況等の8項目について、1年次生の時と比べてどのような変化があったのか回答を求めた(図3)。

学習時間については、「授業以外での勉強時間」、「定期試験に向けての勉強時間」、「提出課題(レポート等)に取り組む時間」が「増えた」、「少し増えた」と回答していた。

授業への出席状況については、「授業に集中できず他のことを行ってしまう回数・時間」、「早退の回数」、「遅刻の回数」が「変わらない」と回答する学生が多かった。

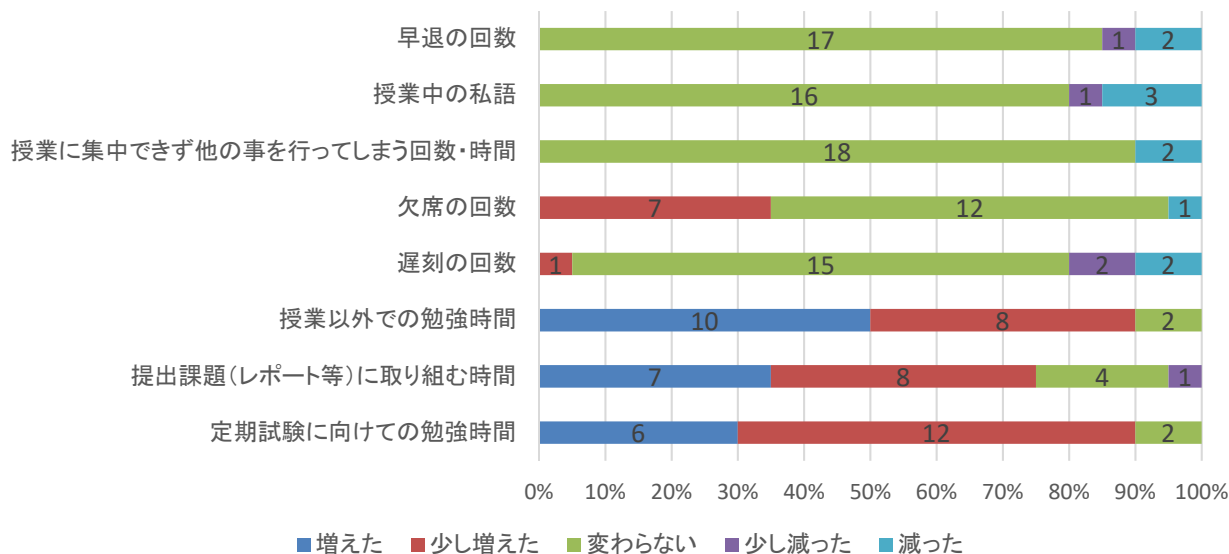


図 3. 1 年次の時と比べての変化 (n=20)

#### 4. 社会人基礎力

本学での 2 年間の学びを通して基礎学力・専門知識、社会人基礎力の項目が身についているかどうかを「思う」から「思わない」までの 4 件で回答を求めた (図 4-1、4-2)。

##### 4-1) 基本的な資質や能力・基礎学力・専門知識

社会人基礎力を生かす『人間としての基本的な資質や能力』、『基礎学力・汎用的能力』、『専門知識・スキル』、『意識・視野』の 4 領域のうち、身につけていると「思う」と回答した学生が最も多かったのは、『人間としての基本的な資質や能力』領域の「他人に共感し、思いやる能力」、『専門知識・スキル』領域の「介護職として求められる知識・知見」がそれぞれ (10 名, 50%) であった。

『基礎学力・汎用的能力』領域の「PC スキル、IT を活用する力」については、「あまり思わない」(9 名, 45%) と回答する学生が他の領域に比べて多かった。

##### 4-2) 社会人基礎力

社会人基礎力が本学での学びを通して身についたかどうかについて、90%以上の学生が身についたと「思う」、「少し思う」と回答した項目は、『チームワーク』の「規律性」、「柔軟性」、『アクション』の「主体性」の 3 項目であった。

一方で、身についたと「あまり思わない」、「思わない」という回答が多かったのは、『アクション』の「働きかけ力」、『シンキング』の「創造力」の項目であった。

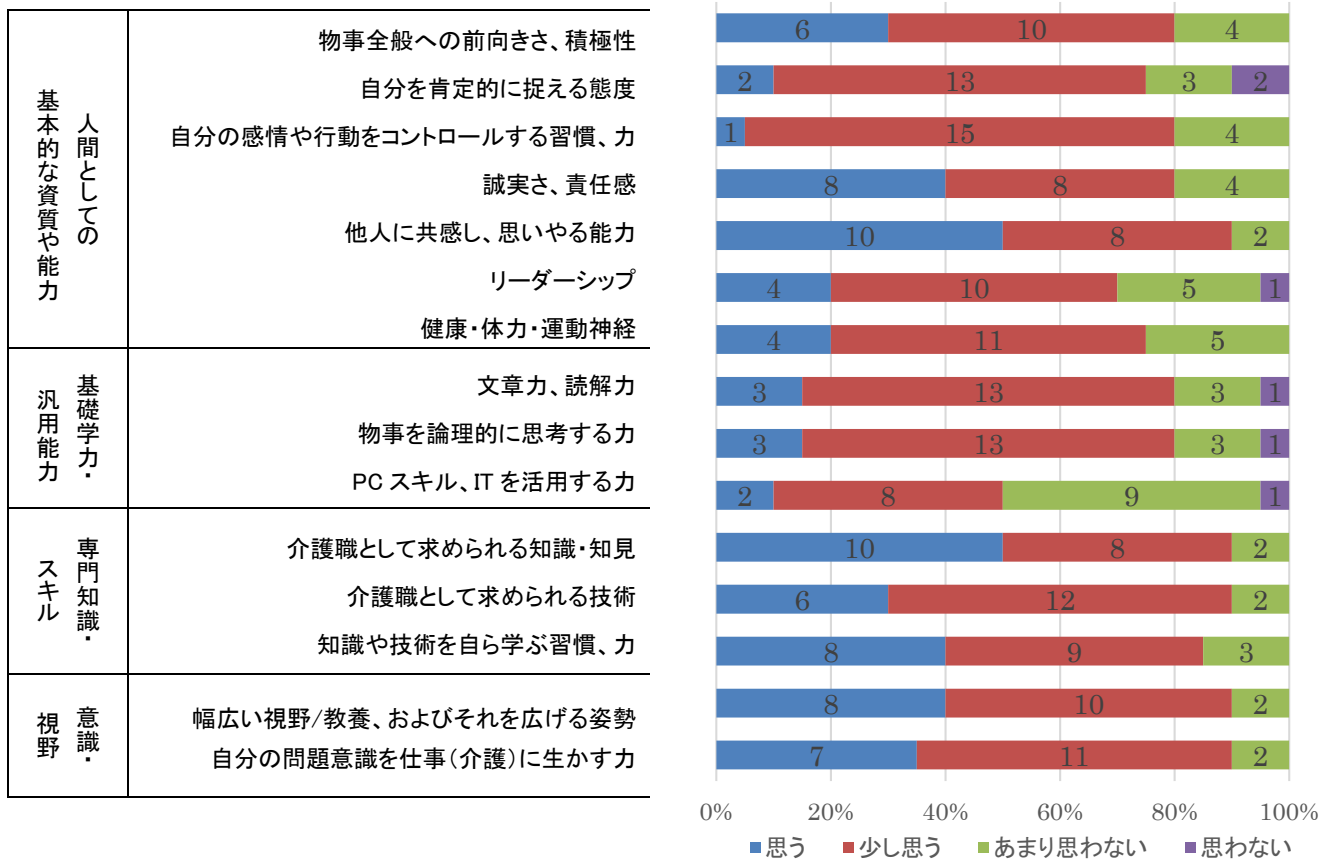


図 4-1. 基本的な資質や能力・基礎学力・専門知識 (n=20)

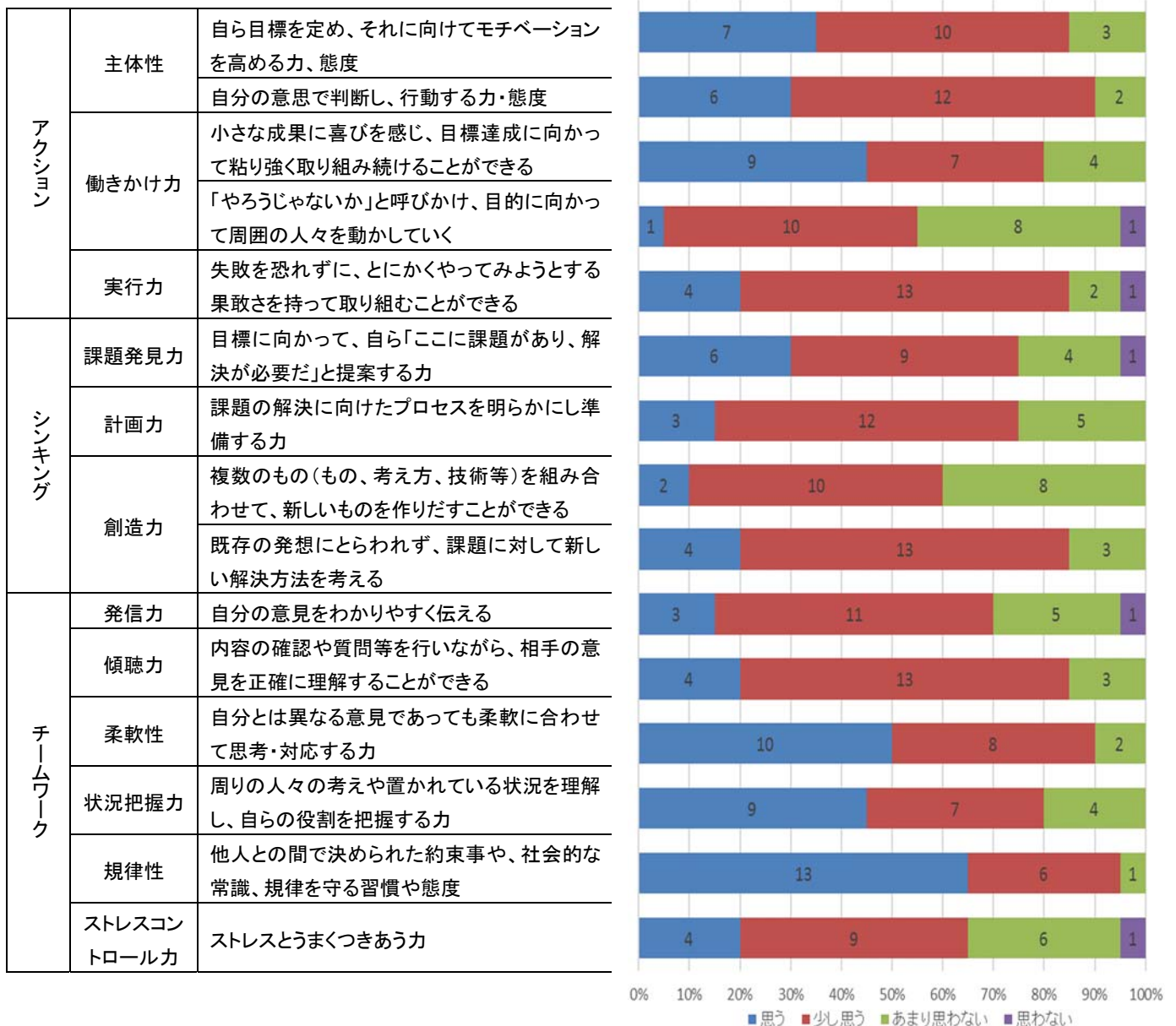


図 4-2. 社会人基礎力 (n=20)

## 5.現在の学習に関する到達度

現在の学習に関する到達度 16 項目について、「思う」から「思わない」までの 4 件で回答を求めた (図 5)。

「職務上知り得た個人の情報を守ることができる」、「他者への共感ができる」については、全員が「思う」、「少し思う」と回答した。

一方で、「誤字・脱字のない記録を書くことができる」については、「あまり思わない」「思わない」と回答した学生が他の項目に比べて多かった。

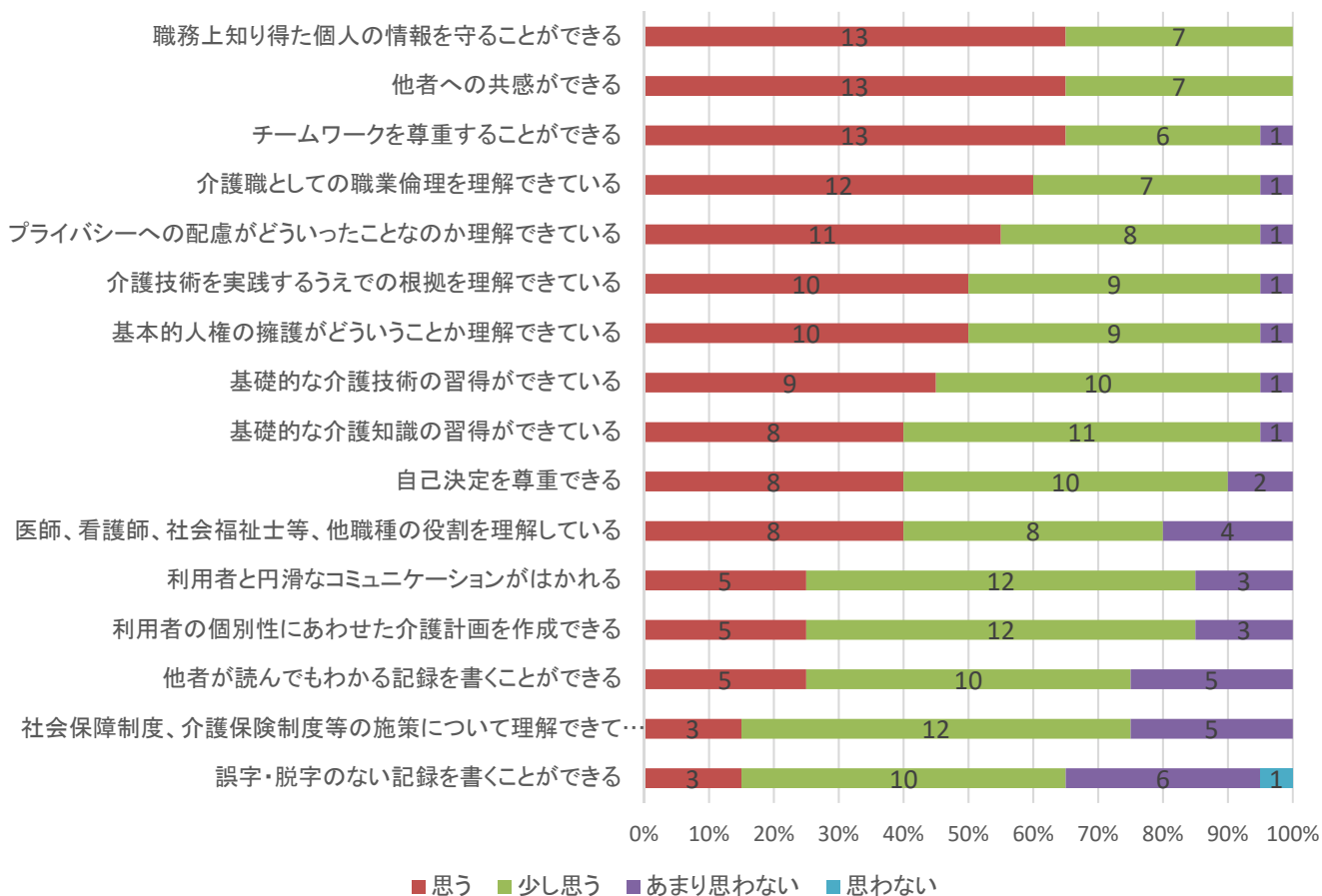


図 5. 資格取得時の到達目標 (n=20)

## 6. 卒業後に取得したい資格等

卒業後に取得したい資格等について複数回答にて回答を求めた (表 2)。

「介護支援専門員」(13名) が最も多く、次いで、「認定介護福祉士」(5名)、「認知症ケア専門士」(4名) の順であった。

表 2. 卒業後に取得したい資格等

資格他	数	資格他	数
介護支援専門員	13	四年制大学への編入	1
社会福祉士	3	精神保健福祉士	3
認定介護福祉士	5	大学院への進学	0
認知症ケア専門士	4	その他	2 (通信、美容系)
保育士	0	保健師	0
特になし	3	作業療法士	0
看護師	1	理学療法士	0



## 7. 介護職として働くことについて

卒業後、介護福祉士として施設・病院等で働く予定の学生を対象として、介護職として働くことに関する11項目について「思う」から「思わない」までの4件で回答を求めた（図6）。

介護職として働くことへの心配事として「思う」との回答が最も多かったのは、「利用者に適切な介護を行うことができるか心配だ」（10名、50%）であり、心配事の5項目すべてにおいて80%以上の学生が「思う」、「少し思う」と回答した。

また、介護職からの転職意向等に関する項目については、3項目すべてにおいて80%以上の学生が「あまり思わない」、「思わない」と回答しており、本学卒業後は、介護職として働く思いがあることがわかった。

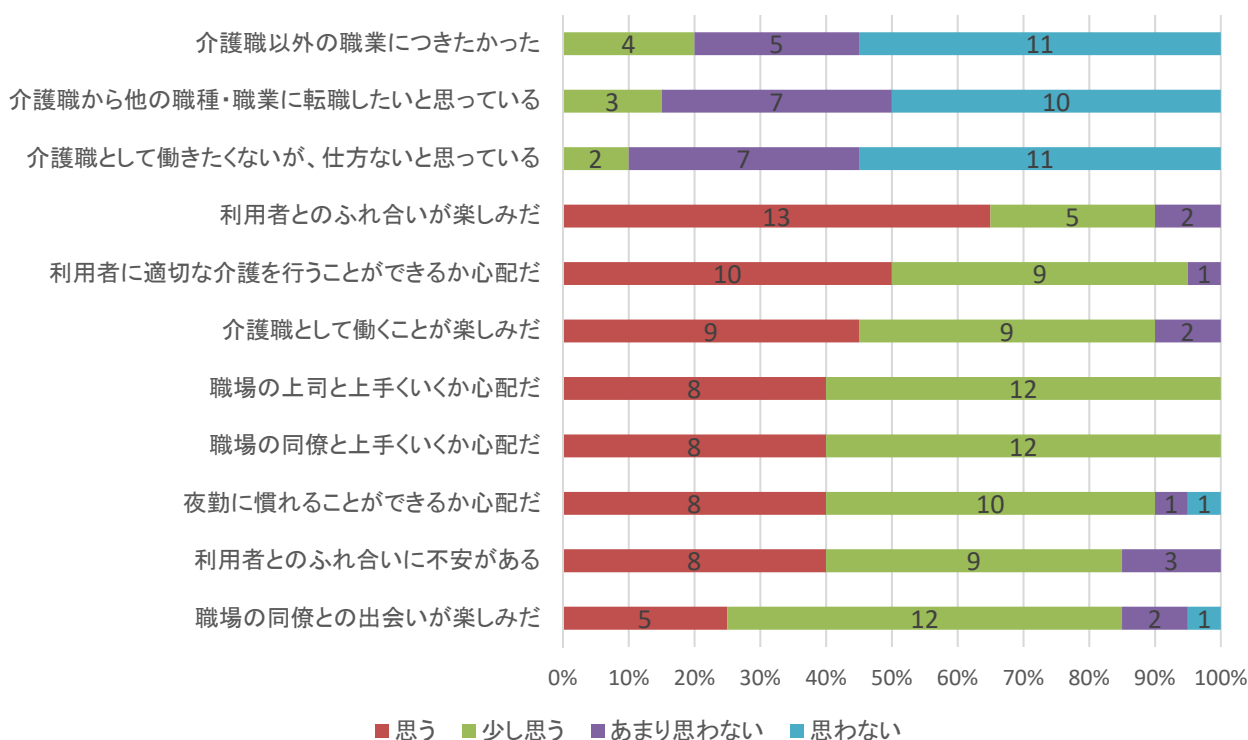


図6. 介護職として働くことについて（n=20）